第３３回市民自治推進委員会　産業躍動部会会議録

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和４年　９月　２日（金）１８時００分～１９時４０分 |
| 開催場所 | 登別市役所　２階　第２委員会室 |
| 出席者 | （部 会 長）川田　弘教（副部会長）吉田　武史（部 会 員）小川　昌宏、近井　一夫、玉川　美智子（庁内委員）渡部　光夫、服部　仁（事 務 局）大越　智輝、佐々木　健、松下　英冬　（欠席委員）鈴木　高士、宮下　裕次　　　　　　　　　　　　 |
| 議題 | ・８月１７日、３１日開催の全体会議について・部会長・副部会長選出について・今後の取り組み案について |

【８月１７日、３１日開催の全体会議について】

（部会員）

新庁舎に広場ができるのであれば民間の団体も、お祭りなどのイベントができると良いと思う。

（部会員）

旧陸上競技場には物置があり、イベント時に使用するものなども保管しているが、新庁舎周辺にも倉庫のようなものがあれば、イベント時だけでなく災害時にも活用できると思う。

（部会員）

軒先でイベントを開催しているイメージ図がとても良かった。チャレンジショップ的な活用もでき、市民だけではなく市外の人も集える良い構想だと思う。

（部会員）

有事の際に災害対策本部を置くことになると思うので、自家発電設備を充実させるべきであると思う。また、新庁舎は高台にあるのでヘリポートを作ってはどうか。

（部会員）

川上公園のように、広場が芝張りだと雨の際に利用が困難になる。イベント時や災害時などに使いやすいような整備方法を考える必要がある。

（部会員）

クリンクルセンターの件も含め、意見聴取という形を取っても財政的に厳しいという理由で却下されてしまうのでは意味がない。財政面を考慮したうえで市民に説明し、合意を得る形が望ましいのではないか。

（部会員）

市で利益を生むような施策をとってはいけないのか。登別市は財政面が厳しいとよく聞くが、そうであれば自ら財源を稼ぎ出すことが必要ではないか。

（庁内委員）

現在の市の事業も、単純に補助金を元手に事業を行うのではなく、プレミアム商品券のように市内経済にも恩恵が出るような施策も行っている。また、ふるさと納税でも約８億円という胆振管内屈指の金額を集めるなど、取り組みを進めている。

（部会員）

行政に頼るだけではなく民間も協働して新しい産業を開発していかなければならないと思う。

（部会員）

市内に日本工学院北海道専門学校、近隣に室蘭工業大学があるのに、就職先が無いため学生が残らないのはもったいないと感じる。受け皿となれるように施策を考える必要があると思う。

（庁内委員）

日本工学院北海道専門学校とも話をさせていただいている。また、市制施行５０周年事業の際には、登別明日中等教育学校や登別青嶺高校の協力に加え、登別青嶺高校では地元学という授業で、市職員が講師となって市の仕事を解説したり、先日行われた「登別ブランドまるしぇ」では、５０名近い生徒に運営の協力をいただくなどしている。時間のかかる取り組みではあるが、少しずつ登別に魅力を抱いてもらえるような施策を行っていきたい。

【部会長・副部会長選出について】

　部会長に川田　弘教氏、副部会長に吉田　武史氏を選出した。

【今後の取り組み案について】

事務局より、これまで産業躍動部会の活動にご協力いただいた、登包会青年部の渡辺氏より引き続きご協力いただける旨の連絡があり、庁内委員とも協議し、登別ブランド推奨品のアレンジレシピを作成し、販売会などでも紹介することを提案。

（部会長）

良い取り組みだとは思うが、登別ブランド推奨品にこだわる必要は無いのではないか。

（部会員）

個々の商品の宣伝は事業者が自ら行うべきことであり、市民自治推進委員会の活動として取り組むべきことではないと思う。また、無理にアレンジをするよりも、現状のままで広まる方法をアンケートなどをとり考える必要があると思う。

（部会員）

登別ブランド推奨品という取り組みは良いが、それを昨年来の本部会の取り組みであるレシピ紹介と組み合わせるのは無理がある。登別ブランド推奨品については無理にアレンジするよりも、個々の商品の良さやエピソードをＰＲするような取り組みの方が適しているし、レシピ紹介については登別ブランド推奨品にこだわらず、登別の産品を広く活用したほうが幅が広がるのではないか。

（部会員）

今年度の産業躍動部会のテーマは調理となるのか。

（事務局）

　渡辺氏に市民自治推進委員会の趣旨を汲み取っていただき、無償でお力を貸していただけるということであったため事務局案として示させていただいた。時間のかかる取り組みではないため、例年のように２、３の取り組みを同時並行で進めることも可能だと思われる。

（部会員）

登別ブランド推奨品にこだわらず、市内の季節の産品などでもよいのではないか。私が経営している店では、お客さんからアレンジレシピや調理方法を教えてもらうことがあり、それをパンフレットにして商品に添付するなどしているが、このようなアレンジを行えるのは一部の品に限られるため、推奨品の間で公平性を保てなくなってしまう恐れがある。他の取り組みとして、例えば、登別でほぼ通年採れるマダラなどを使って市内の料理店やホテルに味付けを考えてもらい、真空パック化して家庭で楽しめるようにするなど、全市を挙げての取り組みが良いのではないか。

（部会員）

登別ブランド推奨品を売り出したいのであれば、アレンジレシピとは別の取り組みの中で扱った方が良さが出るかと思う。

（部会員）

食というのは普段買いやすいもの、かつ地元産であれば目に留まりやすく、消費につながるものだと感じる。登別ブランド推奨品は価格的に市内の人には手が出づらく、観光客が買った場合もアレンジレシピを活用することは無いのではないかと思う。先ほどマダラという話もあったが、最近は気候変動の影響でブリも獲れるようになってきた。北海道民にはブリを食べる習慣がなく、調理方法がわからないため消費されていないのではないか。

（部会員）

ブリについては全道的に取り組みが始まっており、他の自治体ではカツや削り節などの活用方法も出てきている。登別も取り組むべきではないか。

（部会員）

産業躍動部会の部会員には漁協の関係者もいるので、昨今の情勢も聞きながら、よい取り組みができると思う。

（部会員）

北海道周辺で獲れるブリは脂が乗っておらず、臭みもある。油ものや蒸し料理、真空パック調理くらいしか思い浮かばないが、渡辺氏なら更なる新レシピを考案してくれるのではないか。

（部会員）

昨年も１度ブリの取り組みを行ったが、北海道民には馴染みのない魚なので継続して取り組まないと定着しないだろう。

（部会員）

　登別では以前、つけものフェスティバルを実施していた。家庭の味やアイデアが集まって大変盛り上がっていたので、そのような取り組みをブリでも行えないか。自分が作ったレシピが選ばれ、評価されたらうれしいだろうし、自分も作ってみよう、と定着に向けた一助になるのでは。

（部会員）

そもそも、昔行っていたつけものフェスティバル自体を復活できないのか。私はイベントでえりも町の漁協と関わらせてもらっているが、飯鮓作りの伝統や、漬物に対する熱量が素晴らしかった。一品一品が、そのまま真空パック化すれば販売できるのではないかというレベルであり、登別でも同様の取り組みで食文化のレベルアップを図れるのではないか。盛り上がれば道の駅にまで発展するかもしれない。

（部会員）

以前、市内に道の駅を作るという話が持ち上がった時に調べたが、ある町の道の駅では市民が作る惣菜が販売されていた。

（部会員）

冒頭に他の委員が言っていた、稼げるまちにするという考えにもつながるだろう。役所主導ではなく民間を通して商品を開発していくという考えは重要である。

（部会員）

　新庁舎の軒先での物販の構想と組み合わせれば良いのではないか。誰でも挑戦することができ、新たな発見もあると思う。

（部会員）

新庁舎に調理室を設けて保健所の許可を得ることができれば、誰でも気軽に挑戦できるようになる。漬物についてもコインロッカーのような形で保管庫を設ければ、みんなで集って和気あいあいと活動に励める。

（部会員）

そのような道の駅が実際にあった。会員登録をすると調理室が利用でき、作ったものを預けられることになっていた。

（部会員）

　新庁舎の一角がそのような場になったら活気づくだろう。

（部会員）

全市観光にもつながる取り組みとなると思う。

（部会員）

　今まで、登別にはそのようなチャレンジショップを展開できる場が圧倒的に少なかった。空き店舗を利用できないかという話もあったが、賃料や採算の問題がある。新庁舎の一角にチャレンジショップを開ける場所があれば、若者が新しい発想を生むきっかけとなるのではないか。

（部会員）

　３１日の全体会議では発言しなかったが、外構の水回りについて気になっていた。上下水道が整備されていれば、様々な活用が容易にできるようになる。例えば、札幌の大通公園では上下水道が作りつけられており、イベントの際の簡易トイレも水洗式のものが設置できるようになっている。新庁舎の外構についても、そのような整備を行うと活用できるのではないか。

（部会員）

　外構の上下水道の整備は防災の観点でも活用できると思う。

（部会員）

　札幌のオータムフェスト会場も上下水道が完備されていた。作りつけられている設備に塩ビ管を接続するだけで、すぐに使えるようになっている。

（部会員）

　建設の段階で埋設しておけば、取水口・排水口は後々増設できるだろう。

（部会員）

　防災目的ということで上下水道を整備しておけば、他のイベントなどにも転用できる。全体会議で発言のあったキャンプ場も、実現可能かもしれない。

（部会員）

　簡易トイレを整備できれば、林間学校などの学校行事にも活用できるだろう。

（事務局）

　新庁舎についての提案については総務部とも共有させていただきたい。

　また、新庁舎完成に向けて盛り上げていくような、継続して行える取り組みについても検討いただきたい。

また、次回の部会では地場産品の活用に向け、渡辺氏をお呼びして今後の取り組みについて検討する場を設ける予定であったがいかがか？

（部会員）

　以前の取り組みで作成したウォーキングマップからの流れで、登別から登別温泉の間の安全に歩ける道路を紹介してはどうか。カント・レラ付近の旧道を使えば、災害時の逃げ道としても利用できると思う。

（部会長）

　渡辺氏をお呼びする前に、部会にて今一度検討を深めたい。渡辺氏に依頼する内容についてももう少し絞ってからのほうが良いかと思う。

（部会員）

　登別の各団体の傾向として、立ち上げまでは良いが後に続かないという問題がある。周囲を巻き込んでいくためには、話にあったコンテスト形式を採用し、渡辺氏にも参考レシピを出展していただくなどすれば盛り上がっていくだろう。

（部会員）

　つけものフェスティバルを復活するのも良いが、ターゲット層が高齢となる。商工会議所では親子で手作りピザを作るコンテストを行い、優勝作品の納豆ピザを地元の居酒屋で楽しめるようにしたところ、若い層から好評だった。

（事務局）

　つけものフェスティバルについては衛生面の諸手続きなどの観点から終了したと聞いているため、復活は難しいかもしれない。他にもさまざまな選択肢を用意しておいたほうが良いかと思われる。

（部会長）

　テーマの一つとして、参加型のイベントなどを、渡辺氏のご協力も含めて検討していきたい。

また、並行して行えるテーマについても検討していきたい。

（部会員）

　私は昔から起業家トキワ荘という構想を持っていた。チャレンジショップを開けばいいという構想は良いが、どのように活動していくかというレクチャーが一切ないため、経験者がいなくなってしまう。街を背負っていく若者たちがチャレンジできる場が作れれば、彼らは５年後・１０年後の納税者になる。将来のためにこのような構想が必要なのではないか。

●次回日程：令和４年１０月３日（月）を予定